

# 埋めてはならない、大切なもの

## 片桐英数塾通信

河合サテライトネットワーク校  
全統模試実施校  
坂本教室 OFFICE  
TEL 24-1337  
FAX 82-6185  
天神教室  
TEL 23-1899  
E-mail  
info@katagirijuku.com

### 自分の中に思想はあるのか？ 哲学はあるのか？

砂に文字を書くと、大抵はすぐに消えてしまいきます。消えないようにいくら深く彫るように書いたとしても、風のいたずらで、しばらくすれば消されてしまいます。余程、意識してその文字を残そうと努力しない限り、その文字は永遠に残ることはありません。

人の考えというものは、砂に書いた文字のように思えます。どんなに崇高な考えであれ、砂に書いた文字のように、徐々に徐々に砂が上から覆いかぶさり、意識して砂を払わない限り、ついには崇高な考えも見えなくなってしまう。崇高な考えは砂の下にあるべきではなく、多くの人に知られるべきものであるのです。徐々に徐々に埋もれてしまい、やがて気付かれなくなり、その考えの崇高さは色あせることはないのです。

私には勉強好きで好奇心旺盛な知人がいます。その知人はちよつと遠方の人なのですが、こつちにくつてきた時に顔を出してくれていろいろな話をします。ためになるかならないかなどお構いなしに、とにかくいろいろな話を聞いて楽しんでいます。そんな彼の話がきつた

けとなり、地元の大先輩である大平総理大臣について勉強を始めたのが三、四年前のことでした。当時、大平総理大臣が地元のご出身であるということくらいは認識しなかった私は、大平総理大臣についての本を買って漁り、読書を進める中で知った大平総理大臣の思想に感動してしまい、つい書いてしまったのが片桐英数塾通信二〇一二年一月号でした。

大平総理大臣の思想について考える時、「橋元の哲学」「永遠の今(eternal now)」がその中心を成していると思えます。これらはとても難しい思想だと思えます。私も自身が完全に理解できていないなどとは思ってないのですが、そこを何とか分かった気になり、説明してみます。と、「時間的、空間的な違いはありますが、相反する概念が緊張し、均衡が保たれている状態の中に、調和・中立を求めようとする思想」です。これじゃ、かえって分かりにくいですね……。

に影響を受けていたり、逆に、「過去」にとても頑張っていたとすれば「今」はとても充実していてもいい。「未来」を良くしたいと思えば、「今」を努力するしかなく、もし「今」を十分に組み立てなければ、それ相応の「未来」しか待っていません。「過去」をいくらか反省し後悔しようとも「今」を「過去」に戻すことはできず、いくらか良い「未来」を期待しようとも、「今」はあくまで「今」であり、「未来」がどうなっているかなど知る由もなく、「過去」を見ても「未来」を見ても、結局、私たちが自分たちの努力で何とかできるのは「今」だけだ。そんなんだつたら、「今」が満足いく充実したものではなくとも、それを受け入れ、自分の手で少しでもより良い「今」となるように努力をしていくしかないのではないかと、というのが「永遠の今(eternal now)」の基本的な考え方だと思えます。

そして「橋元の哲学」です。まず橋元について説明しますと、橋元とは「平面上のある二定点からの距離の和が一定となるような点」の集合から作られる曲線に言いいます。その二定点が近いほど橋元は円に近づき、二定点が重なり合った時、橋元は完全な円となります。

この二定点は決して重なり合ってはならず、それぞれの定点が同じような力を発揮し、お互いが交わらず引つ張り合い、バランスのとれた綺麗な橋元の状態が理想的な調和だと考えられていたようです。

しかし、考えてみますとこれはとても難しくしんどい考え方です。人と人を橋元の二定点としますと、人には人それぞれの考えがあります。人には人それぞれ立場があります。人と人の立場が異なります。人とのだから橋元の状態だと、二人が反発しあっていることになり、どう考えてもその状況はしんどい。それならば二定点を重ね合わせて円になるようにした方が余程楽です。

二定点を重ね合わせるということはどういうことか？ 交わらず引つ張り合っていた人同士を同じ場所に置くということに他なりません。ということはどういうことか？ それぞれに円の中心となるところまで歩み寄つてもう一方、片方のために片方に犠牲になつてもう一方かです。前者の場合ならまだ分かる。しかし、後者の場合、私には問題があるようにしか思えません。恐らく、こういったことをさらに高度に思考されていたのが大平総理大臣だったのだと考えています。

書きたいことはまだまだあるのですが、この紙面には書ききれませんので、これは大変に失礼にあたる言葉だと思いつつも、私が強く思うことだけをここに書かせて頂きますと、この国の将来のことを案じ、この国を思う深い愛と厳しさをその信念とし、時に不器用なまでに真っ直ぐに現実に向き合われたのが大平総理大臣だったと考えております。

化の勢いを増してきています。大平総理大臣が外務大臣、大蔵大臣、総理大臣を務められた一九七〇年代も時代の流れが大きく変わっていました。どこにも今と似ているように思えます。だからこそ今は大平総理大臣が将来を思い、当時の「今」に向き合い取り組まれた行動、思想などは決して砂に埋めたいけな思っています。

先ほどの勉強熱心で好奇心旺盛な知人から教わられたのですが、「大平正芳記念館」がこの三月で閉館すること。正直なところ寂しいです。ですが、このことがその崇高な思想に光を当てるきっかけとなつて欲しい。そんなことを一ファンとして願っております。

卒業おめでとう  
Where there is a will, there is a way.  
みんなのこれまでの人生は、この「卒業」に向かって伸びていました。この「卒業」という一点に向かって伸びていたみんなの生活は、この「卒業」で、ひとまず、ここに終わりを告げます。終わりというものは寂しいものです。二度と戻れないはかないものです。だからこそ、涙が出るほど尊いものです。この「卒業」までの人生を、懸命に頑張りと、そして「卒業」に辿り着いた君たちを、心よりお祝い致します。

卒業、本当におめでとう！  
これからは、これまでのように、みんなが同じ方向に向いて、みんなと同じように歩くことは、もうありません。自分の道は、自分の意思で切り拓いていくしかありません。しかし、意思さえあれば道は拓かれます。そのことは忘れないで下さい。

10年後、20年後のみんなが笑顔で、強い意志で人生を力強く歩んでいることを、願っております。  
すべての受験を終えた受験生の皆さんは、合格高校・大学について坂本教室まで必ずお知らせください。また、体験談へのご協力もお願いします。

河合塾のeラーニング kael を始めよう！  
インターネットに接続したPC、iPhone、iPod touch、Windowsタブレット、iPad miniからアクセス可能。いつでも学習できる！！  
河合サテライト講座の映像制作ノウハウが凝縮された映像解説と、まるで先生がその場で画面に書きこんでいるような新感覚の手書き解説。無料体験受付中！！

### 新年度新規塾生募集開始！

新中1生は 3月30日(月) 正規授業スタート

新高1生は 3月25日(水) 正規授業スタート

入学の前に、いち早く新学年の内容を学習していきます。新入生のみならず、春からの新生活をぜひ充実したものにしていきましょう。入塾についての詳しいことは、坂本教室までお問い合わせください。 TEL 24-1337

### 片桐英数塾からのお知らせ

天神教室・坂本教室の3月のお休みは、

1日(日)、8日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)です。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

HPアドレス <http://www.katagirijuku.com>  
メールアドレス [katagirijuku@docomo.ne.jp](mailto:katagirijuku@docomo.ne.jp)



こちらのQRコードから塾のHPにアクセスすることができます。

楽しみながら脳を鍛える  
トレーニング講座

パズル道場 算数 国語

幼児・小学生・中学生対象

数のセンス育成講座  
算数 MAX

小学生対象  
(中学生も受講可能)

引き続き  
受講生  
募集中です！！



# 使命を持ち生きるということ

## 片桐英数塾通信

河合サテライトネットワーク校  
全統模試実施校  
坂本教室 OFFICE  
TEL 24-1337  
FAX 82-6185  
天神教室  
TEL 23-1899  
E-mail  
info@katagirijuku.com

### 大平総理大臣に学ばせて頂こう。 大いなる未来を切り拓くために

私には勉強好きで好奇心旺盛な知人がおりました。ちょっと遠方の人なのですが、つちの方に来た時に、たまに顔を出してくれました。彼と話しているとながら感心する程、話題の尽きることがありません。ためになるやら、ならないやらなどお構いなく、時を浪費することをお厭わず、時に腹を抱え、時に腕を組み、時に天を仰ぎ、そんなことをしながら話しておりました。割と強烈なテーマが多いです。世界情勢とか、経済のこととか……

そんな彼が、先日、少々興奮気味にやってきました。何かと思いきや「やっ」と行ってきまして。大平正芳記念館「このたまわね。そう言え、彼、このところ、やつてきては大平総理大臣のことばかり話しておりました。池上彰さんもテレビで歴代総理大臣について、「歴代総理の中で最も知的な総理」と言っていました。最近、大平総理大臣が注目されることが多いです。私も、「そうか! そんな立派な総理大臣が地元の出身だったんだ!」と、あらためて思い出していたのですが、彼の行動力は、全く天晴でございます。

たことは無いの? こんなに近いの?」と目をクルクルさせながら逆に質問され、これには困って、「アッ、アッ」と言うばかりでございます。以前から地元の大先輩である大平総理大臣について無知であることに負い目を感じていたのですが、これも良いきっかけだと思ひ、今更ながらに大平総理大臣について学び始めました。

初めは大平総理大臣が何をされたかくらいは知っております。と、足跡をただなぞるうとしていたのですが、勉強を進めいくと、そんな事実だけを追いかけることなどより、思想の素晴らしさ、生き様に感動を覚えるようになっておりました。特に、「日中国交正常化」を行うにあたり、田中角栄首相と共に、とても難しい交渉にあたられていた下りは、ちよつと涙ぐみながら本を読んでおりました。

大平総理大臣の思想について考える時、「橋本の哲学」「永遠の今(eternal now)」という言葉と度々遭遇します。「橋本の哲学」は、相反する二つの力が均衡を保ちつつ緊張した状態に、調和・中立を見出すとするもので、また、「永遠の今」は、未来を指向する力と過去の持つ引力という相反した方向に働く力が緊張し合い、均衡している状態が現在である、とする考えであると理解しております。いずれの考え方も、空間的、時間的な違いはありますが、

緊張し、均衡が保たれている状態の中に、調和・中立を求めようとする思想であり、しかし、調和・中立を求めるからといって、決して妥協したり迎合しようとするものではなく、力と力が作用し合う最も激しい作用点にこそ最高の調和・中立があるとすると、とても激しく厳しく、気が遠くなるような氣力を要する思想だと考えます。

私がこの難しい思想を理解するために考えた例えなのですが、百あるものとその反対の方に百あるものとがある。それを調和させようと、それぞれを五十ずつに分けたりすれば数が減る。それなら百と百をぶつけ合い二百にしてしまおう、いや、相乗的に高め合わせて二百以上のものを得ようというもののほうが、あ、と思います。その考えからは、確かに得るものは大きくなるのだけど、ぶつかり合った時の衝撃は並大抵のものではないでしょう。その衝撃に耐え切れずに、どちらかの側に流れてしまつては効果は得られないし、ぶつかり合うのが一瞬ならば良いのです



KATAGIRI English and Mathematics School

総理大臣に就任された時に話されたこの言葉に、日本を思う深い愛を、その厳しさの中に感じてしまいます。「政治と国民との間に距離がないようにできたら一体となりたい。つまり手軽に権力に頼る政治はいけない。国民と一体となつて、苦楽を共にする政治が第一と考える。第二は政治が甘い幻想を国民にまき散らすことはつしまなくてはならない。同時に国民の方もあまり過大な期待を政治に持つて欲しくない。両方の理解があれば、実のある政治ができる」と申し上げたい。(朝日新聞一九七八年十二月九日)」

当時、大平総理大臣が立ち上げた政策研究会は九つあります。どれもが今もなお大きな示唆を与えてくれるものばかりです。例えば、「環太平洋連帯構想」は現在のAPECに繋がっており、その他、三十年以上も前に大平総理大臣が考えられた考えが、現在の世界の最先端の考えと近く、それで、今、大平総理大臣を研究している人が多いのだと思ひます。

大平総理大臣を過去の人として扱って良いのだろうか。そんな疑問が脳裏を過ぎります。今という時代にこそ大平総理大臣の力が必要だと思ひます。大平総理大臣に学び、私たちの頭の中、心の中に、大平総理大臣にいくらでも蘇って頂くことが大切だと素直に感じます。

地元の先輩であり、親一生にとっては学校の先輩です。学ばせて頂きます。私もまだまだ大平総理大臣の勉強を始めたばかりで、偉そうなことなど言えないのですが、私が読んだ本がもしも参考になるのならと思ひ書き出しておきます。

最後に、次の言葉は、政策研究の報告書に付されたものです。報告書が提出されたちやうどその頃、大平総理大臣は、史上初の衆参同日選挙という過酷な状況の中、お亡くなりになりました。私はこの言葉を、私たちへの大平総理大臣の御遺言として考えたい。

日本人の将来進むべき道を探るという大事業が「私の世代に完成することがなくても、私は次の世代が力強く引き継いでくれることを信じている。」

保護者の方へお願い  
お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願い致します。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などにご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

参考図書  
大平正芳「戦後保守」  
とは何か  
(中公新書)  
福永文夫  
日中国交正常化  
―田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦―  
(中公新書) 服部 龍二  
大平正芳全著作品集 155  
茜色の空 (文藝春秋) 辻井 喬